

TOTO

パブリック用手すり はね上げタイプ

T112H型
T113H型
T114H型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1. 安全上の注意(安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



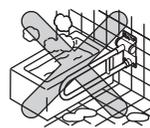
警告

この表示を無視して、誤った取り扱いを
すると、人が死亡または重傷を負うこと
が想定される内容を示しています。⊘ は、してはいけない「禁止」
内容です。
左図は、「分解禁止」を示します。! は、必ず実行していただく
「強制」内容です。
左図は、「必ず実行」を示します。

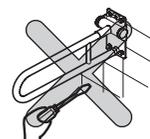
警告



禁止

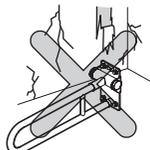
屋外や浴室など、水がかかったり湿気が多い場
所には取り付けない可動式手すりの機能を損ない、けがをするおそれがあり
ます。

分解禁止

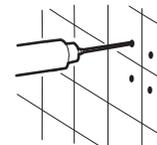
修理技術者以外の人には絶対に分解したり、修理・
改造は行わない手すりの破損や脱落により使用される方が転倒し、けが
をするおそれがあります。

必ず実行

必ず強度のある壁・建築構造体に取り付ける

土壁・石膏ボード壁などの強度のない壁に直接取り
付けると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用
される方が転倒し、けがをするおそれがあります。

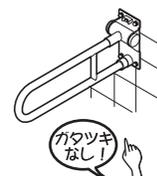
警告

トイレなどの水まわりに使用される際は、取り
付ける穴の周囲に必ずシーリング剤を塗布するシーリング剤を塗布しないと、壁裏へ水が浸入し、手
すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が
転倒し、けがをするおそれがあります。

必ず当社指定の固定金具を使用する

当社指定の固定金具を使用しないと、手すりが外れ
たり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、け
がをするおそれがあります。

必ず実行

十分な下地の厚さ、および補強があることを確認
し、指定の取付方法で取り付ける下地に十分な厚さ・補強がなく、各下地の指定取付
方法を守らないと、手すりが外れたり、壁が壊れ
たりして使用される方が転倒し、けがをするおそれ
があります。取り付け完了後、手すりにガタツキがないこと
を確認する手すりにガタツキがあると、手すりが外れたり、壁
が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをする
おそれがあります。

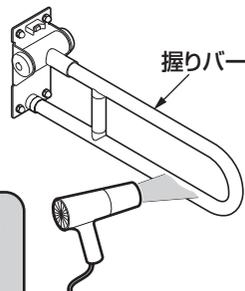
2-1. 取り付け前に

取り付け前の注意

- 手すりを取り付ける壁に**十分な強度がある**ことを確認してください。
- 取付方法は**建物の構造に応じて適切な方法を選んで**ください。
手すりは、手すり本体と壁への固定金具が別々の品番となっていますので、壁の構造に応じて別途固定金具をご注文ください。固定金具は手すり1つに対して1つ必要です。固定金具必要セット数は「**3. 固定金具(別売品)**」を参照してください。
※掲載以外の固定方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。
- 手すりの可動範囲に障害物のないこと**を確認してください。
可動範囲については「**5. 完成図**」を参照してください。
- 手すりの取付位置はカタログなどを参照してください。
- はね上げタイプの機能の確認は、取り付け前ではなく、取り付け完了後に行ってください。
はね上げタイプは壁に取り付けて初めて機能を発揮しますので、壁に取り付けず握りバーを動かすと重たく感じることがあります。

樹脂被覆タイプおよびコンビネーションタイプの握りバーについて

- 樹脂被覆タイプおよびコンビネーションタイプの握りバー表面に傷を入れると補修できませんので、取り扱いには注意してください。
- 樹脂被覆タイプおよびコンビネーションタイプの握りバー表面は軟質樹脂のため、工具などが握りバー表面に当たると、握りバー表面にへこみが発生することがあります。その場合は下記要領にて修正してください。
〈修正方法〉ヘアドライヤーにてへこみ部分に2~3分程度熱風を当てる。
※へこみの程度により熱風を当てる時間が変わりますので、へこみの復元状態を見ながら修正してください。



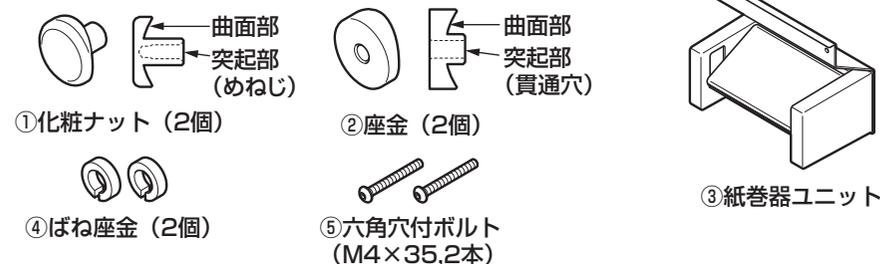
注意

樹脂被覆タイプおよびコンビネーションタイプの握りバー表面の軟質樹脂に熱風を当て過ぎないようにしてください。軟質樹脂部が焼けたり、変色したりすることがあります。

紙巻器付き (T112HP型) の場合

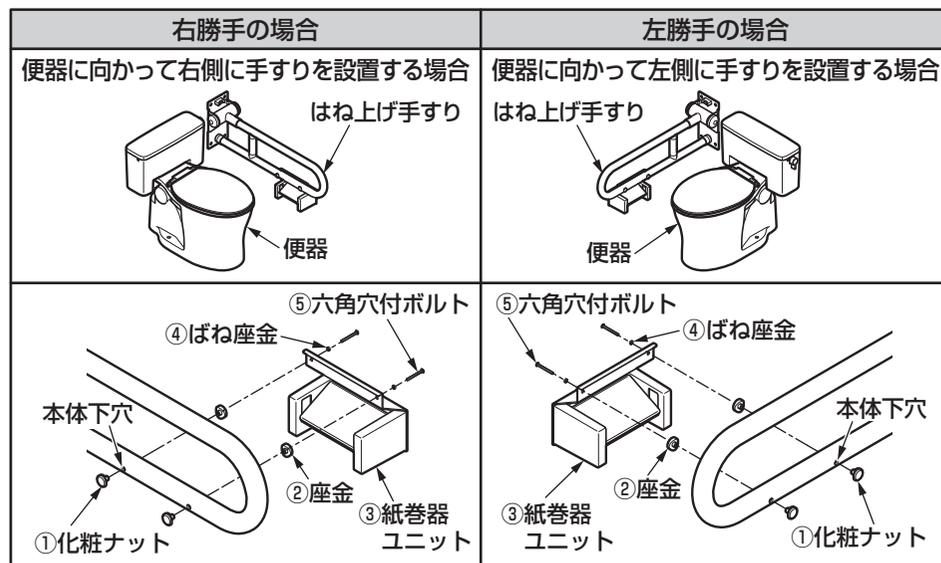
●組立部品の確認

次の部品があることを確認してください。



●設置方向の確認

紙巻器付きには右/左勝手があります。商品を壁に固定する前に、下記のとおり、便器位置にあわせて紙巻器ユニットを正しく取り付けてください。



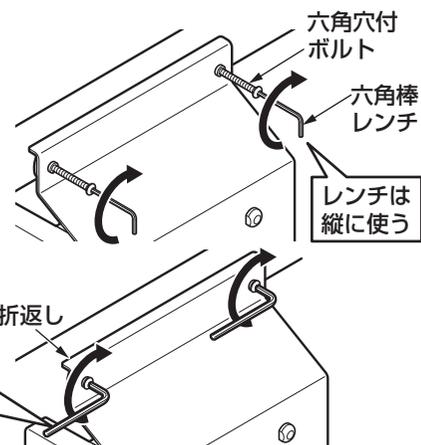
1. 六角穴付ボルト(⑤)をばね座金(④)、紙巻器ユニット(③)、座金(②)の順番で通し、座金の突起部を本体下穴に差し込む
2. 座金(②)の反対側の本体下穴に化粧ナット(①)の突起部を差し込む

2-2. 取り付け前に

六角穴付ボルトの締め付け

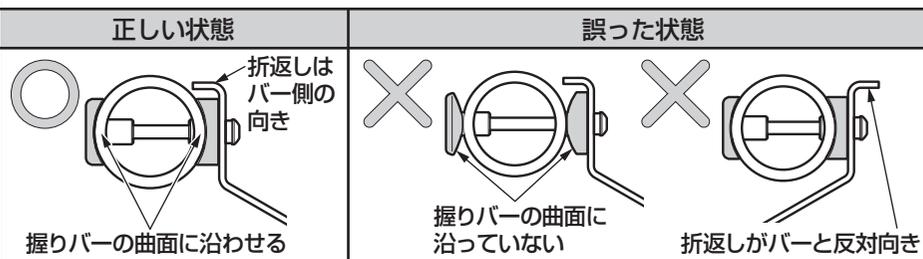
①六角棒レンチ（対辺2.5mm）の長い方を使って六角穴付ボルト（2本）が突き当たるまで均等に軽くねじ込む。

②六角棒レンチの短い方に差し替えて、均等にしっかりと締め付ける。（①の状態から180°程度増し締め）



レンチを横使いして均等にしっかりと増し締めする

組立後の状態



注意

- 取り付け後は紙巻器ユニットがしっかりと固定されていることをご確認ください。
- 組立部品の向きや順番にご注意ください。部品の向きや順番が正しくない場合、部品の角部で手すりを使用される方がけがをされるおそれがあります。
- 座金と化粧ナットの曲面部が握りバーの曲面に沿うように取り付けてください。曲面部がずれていると紙巻器ユニットがガタついたり、傾いたりすることがあります。
- 紙巻器付き（T112HP型）には必ず同梱の紙巻器ユニットを取り付けてください。紙巻器ユニットを取り付けないと、手すりが勝手にはね上がり使用される方がけがをされるおそれがあります。
- 六角穴付ボルトをねじ込む際は、六角棒レンチ（対辺2.5mm用）を使用してください。

3. 固定金具（別売品）

※P1a: T112H、T113H、T114H型の取付位置
P1b: EWC730、EWC731型の取付位置（単位：mm）

品番	形状	セット内訳	品番	形状	セット内訳
T110D49R P1a=220 P1b=190		・取付プレート/1枚	T110D36		・軽量鉄骨用取付金具/1枚 ・ドリルねじ/10本
T110D50		・長ねじボルト/4本 ・座金/4個 ・ナット/8個	T110D53		・長ねじボルト/4本
T110D51		・長ねじボルト/4本 ・ナット/4個 ・アンカーボルト/4本	T110D54		・長ねじボルト/4本 ・メカナット/4本
T110D52		・長ねじボルト/4本 ・ナット/4個	T110D17S		・アンカーボルト/4本
			T110D25		・ハンガーボルト/4本 ・ナット/2個 ※ナットはハンガーボルトねじ込み時のスバネ掛けとして使用します。

〈固定金具必要個数一覧表〉

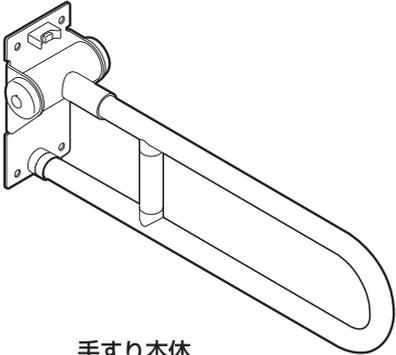
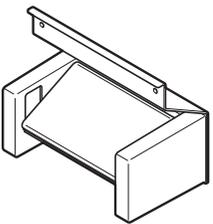
下地(取付方法)	コンクリート下地 GL工法(注1) (取付プレート埋め込み固定)	コンクリート下地 (アンカーボルト固定)	木下地・ コンクリートブロック下地 (取付プレート挟み込み固定)注2	木下地 (ハンガーボルト固定)
タイプ				
はね上げタイプ	T110D49R×1 T110D51×1	T110D17S×1	T110D49R×1 T110D50×1	T110D25×1

下地(取付方法)	軽量鉄骨下地 (ボルト固定)	軽量鉄骨下地 (メカナット固定)	軽量鉄骨下地 (取付プレート溶接固定)
タイプ			
はね上げタイプ	T110D36×1 T110D53×1	T110D36×1 T110D54×1	T110D49R×1 T110D52×1

- 注1：【GL工法の場合】GL厚40mm以下の場合のみ使用できます。40mm以上の場合はボルト（M10長ねじボルト）を別途（現場調達）をご用意ください。なおボルトの長さは壁の厚さを考慮してご用意ください。
- 注2：【コンクリートブロック下地の場合】コンクリートブロック裏面から壁仕上げ面までの厚さが125mm以下の場合のみ使用できます。

4. 部品の確認

次の部品があることを確認してください。

手すり本体部	
 <p>手すり本体 <T112H型の場合></p>	 <p>化粧ナット (M10・4個)</p>  <p>ばね座金 (4個)</p>
その他	
<p><紙巻器付き(T112HP型のみ)></p>  <p>紙巻器ユニット</p>  <p>六角穴付ボルト (M4×35・2本)</p>	 <p>化粧ナット (2個)</p>  <p>座金 (2個)</p>  <p>ばね座金 (2個)</p>  <p>施工説明書</p>  <p>取扱説明書</p>  <p>使用方法ラベル</p>

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

5. 完成図

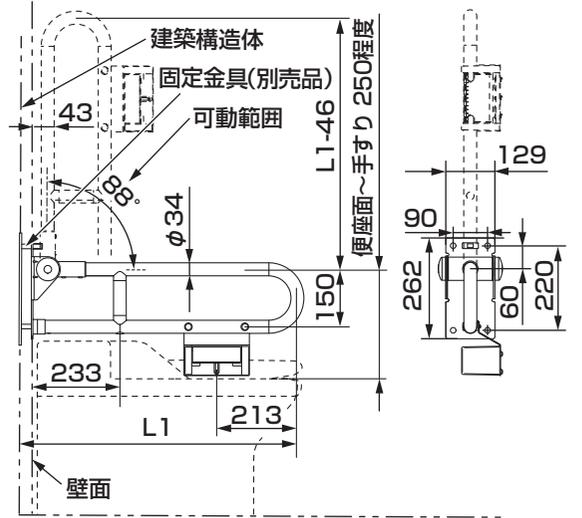
※寸法は、標準的な数値で示しています。
使用者が特定できる場合は、その方の使いやすさにあわせて取付位置を決定してください。

はね上げタイプ

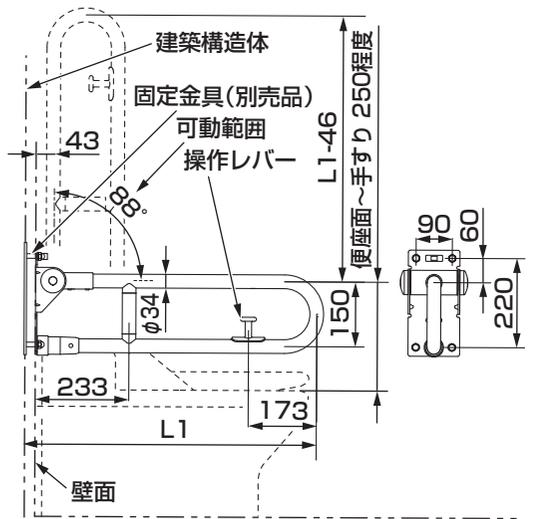
樹脂被覆タイプ				L1
ロックなし	質量	ロック式	質量	
T112H6R	4.6kg	T112HK6R	5.5kg	600
T112H7R	4.9kg	T112HK7R	5.8kg	700
T112H8R	5.2kg	T112HK8R	6.2kg	800
T112HP7	5.7kg	-	-	700
T112HP8	5.9kg	-	-	800

ステンレスタイプ		コンビネーションタイプ		L1
ロック式	質量	ロック式	質量	
T113HK6R	5.4kg	T114HK6R	5.6kg	600
T113HK7R	5.7kg	T114HK7R	6.1kg	700
T113HK8R	6.0kg	T114HK8R	6.5kg	800

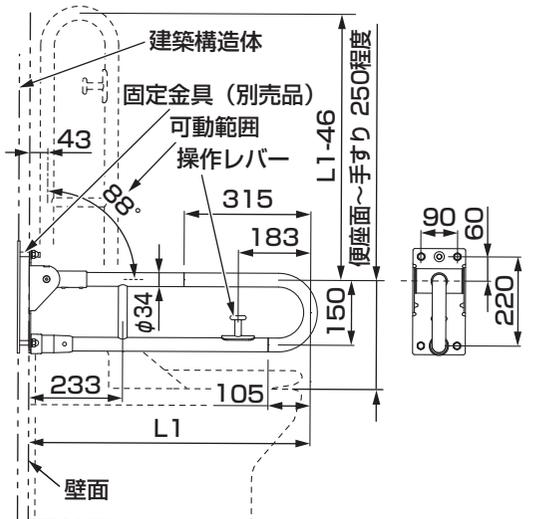
T112HP型の場合 (単位: mm)



T112H型・T112HK型・T113HK型の場合



T114HK型の場合



※T112H型は操作レバーがありません

6. 施工手順

1 位置決め

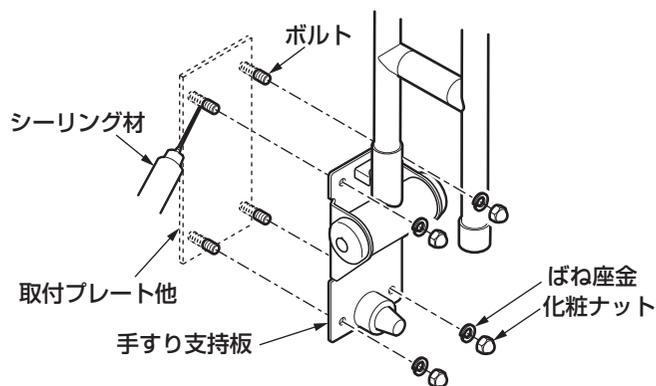
手すりの取付位置を決め、下穴をあける。
位置決めは、施工説明書裏面の型紙を使用して、心出しを行ってください。
※穴あけ方法は「7. 壁への固定金具の取り付け」の各固定方法を参照してください。

2 壁への固定金具の取り付け

※固定金具の取付方法は「7. 壁への固定金具の取り付け」の各固定方法を参照してください。

3 手すりの取り付け

壁仕上げ面から出たボルトに、手すり支持板とばね座金を通したあと、化粧ナットで締め付けてください。



注意

化粧ナットを強く締め過ぎてタイルを割らないように注意してください。

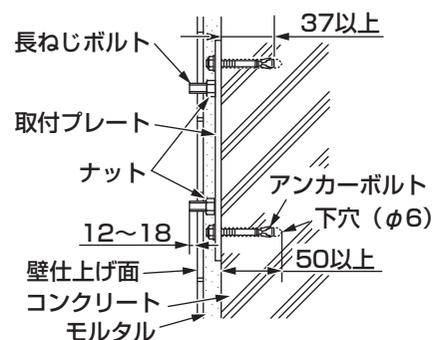
7-1. 壁への固定金具の取り付け

コンクリート下地・GL工法：取付プレート埋め込み固定の場合

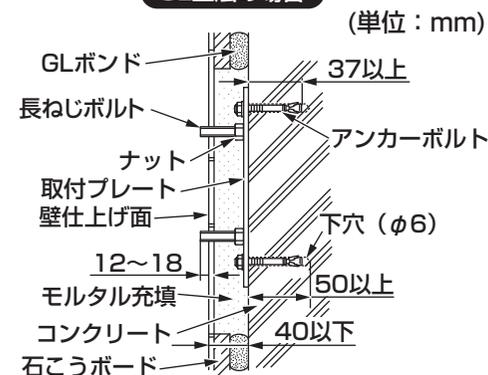
固定金具品番 T110D49R+T110D51

- ①心出しをしたあと、 $\phi 6\text{mm}$ 、深さ50mm以上のアンカーボルトの下穴をあける。【注1】
- ②ナットをアンカーボルト上端から2mm程度ねじ込み、取付プレートの取付穴に通し、下穴に軽く打ち込む。【注2・3】
- ③アンカーボルトのナットを締め付ける。
- ④取付プレートのボルト穴に、長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。【注5】
- ⑤壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整する。【注4・5】

コンクリート下地の場合



GL工法の場合



注意

- 注1：コンクリートに $\phi 6\text{mm}$ 、深さ50mm以上の下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと取付プレートの確実な固定ができないことがあります。
- 注2：T110D49Rの場合“ウエ”表示が必ず取付面に対して上側を向くように施工してください。
- 注3：アンカーボルトのコンクリートへの埋め込み代は37mm以上となるようにしてください。
- 注4：ボルトの出代が壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整してください。
- 注5：ボルトの長さが短い場合は、M10長ねじボルトを現場調達してください。

7-2. 壁への固定金具の取り付け

コンクリート下地：アンカーボルト固定の場合

固定金具品番 T110D17S

①心出しをしたあと、 $\phi 10\text{mm}$ 、深さ85mm以上のアンカーボルトの下穴をあける。**注1**

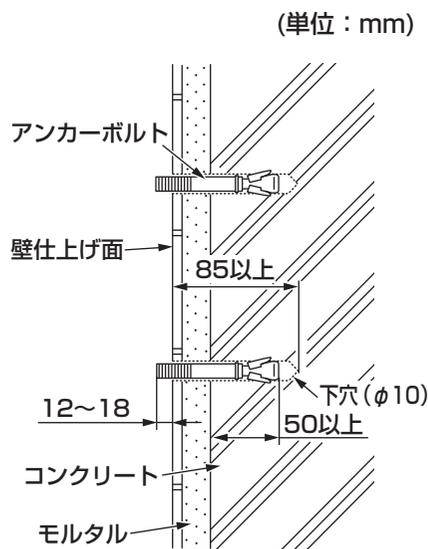
②ナットをアンカーボルト上端から2mm程度ねじ込み、下穴に軽く打ち込む。**注2**

③アンカーボルトのナットを締め付ける。
(これにより、アンカーのクサビが開き、アンカーが抜けなくなります)

④アンカーボルトのナットを外す。

⑤アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整する。**注3**

※固定金具に同梱のアンカーボルトのナットは手すりを取り付けるときには使用しません。



注意

注1：コンクリートに $\phi 10\text{mm}$ 、深さ85mm以上の下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

注2：アンカーボルトのコンクリートへの埋め込み代は50mm以上となるようにしてください。

注3：アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整してください。

木下地・コンクリートブロック下地：取付プレート挟み込み固定の場合

固定金具品番 T110D49R+T110D50

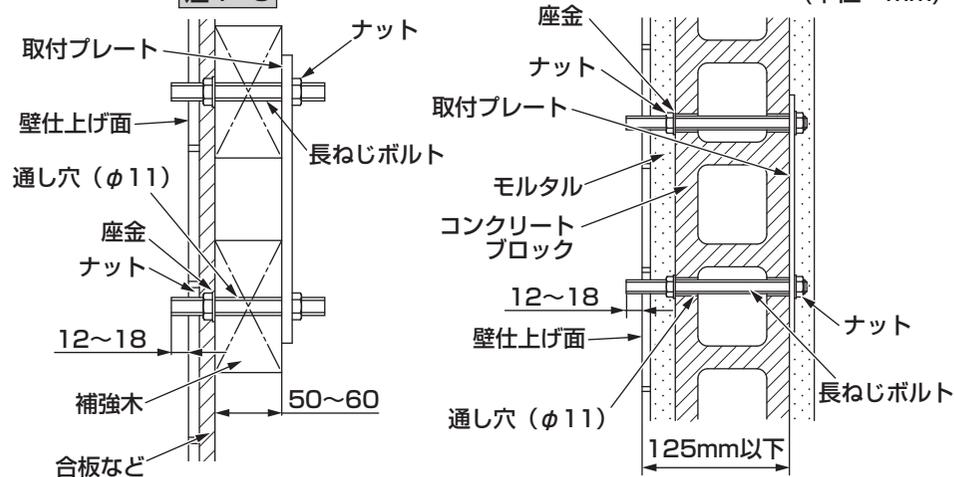
①木下地の場合、事前到手すり取付部に厚さ50~60mmの補強木を取り付ける。**注1**

②心出しをしたあと、 $\phi 11\text{mm}$ の長ねじボルトの通し穴をあける。**注2**

③取付プレートのボルト穴に長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。**注3**

④長ねじボルトを通し穴に差し込み、壁裏側に取付プレートを当て、手すり取付側より座金、ナットで締め付ける。

⑤壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整する。**注4・5**



注意

注1：木下地の場合、厚さ50~60mmの補強木を強度のある柱などにしっかりと取り付けてください。

注2：コンクリートブロック下地の場合、空洞部をモルタルなどで埋める必要はありません。

注3：T110D49Rの場合“ウエ”表示が必ず取付面に対して上側を向くように施工してください。

注4：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整してください。

注5：ボルトの長さが短い場合は、M10長ねじボルトを現場調達してください。

7-3. 壁への固定金具の取り付け

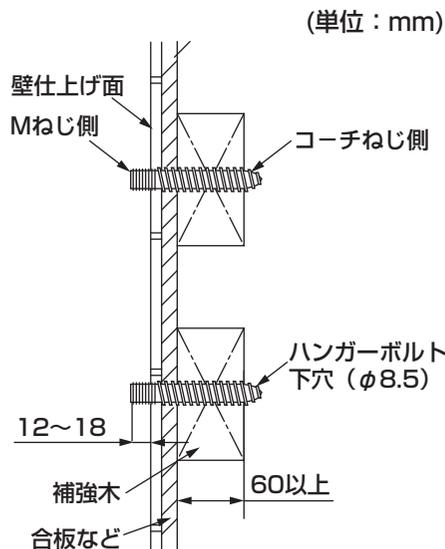
木下地：ハンガーボルト固定の場合

固定金具品番 T110D25

- ①事前に手すり取付部に厚さ60mm以上の補強木を取り付ける。**注1**
- ②心出しをしたあと、 $\phi 8.5$ mmのハンガーボルトの下穴をあける。**注2**
(タイル壁の場合は、タイル部のみ $\phi 11 \sim 13$ mmの通し穴をあける)
- ③ハンガーボルトに同梱のナット(2個)をダブルナットで固定する。(下図参照)
- ④③で固定した、ダブルナットを工具で回し、下穴にハンガーボルトをねじ込む。**注3**
- ⑤壁仕上げ面よりボルトの出代が12~18mmの範囲となるように調整する。**注4**
- ⑥ダブルナットを取り外す。



ナットを2個ねじ込み、お互いのナットを逆回しして締め付け、固定する。



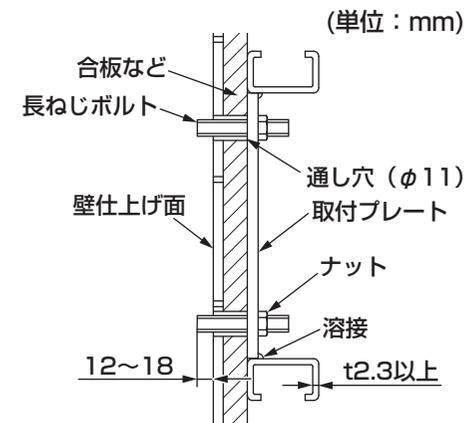
注意

- 注1：**厚さ60mm以上の補強木を必ず取り付けてください。
- 注2：**補強木に $\phi 8.5$ mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。
- 注3：**必ずナット(2個)をダブルナットとして壁にハンガーボルトを取り付けてください。化粧ナットで取り付けると、化粧ナットの頭部が破損することがあります。
- 注4：**ハンガーボルトの出代が壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整してください。

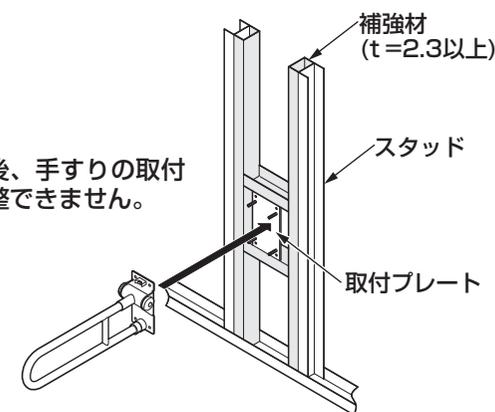
軽量鉄骨下地：取付プレート溶接固定の場合

固定金具品番 T110D49R+T110D52

- ①心出しをしながら取付プレートを補強材の軽量鉄骨($t2.3$ mm以上)に溶接固定する。**注1**
- ②取付プレートの穴に、長ねじボルトをねじ込み、壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整し、壁裏面よりナットで締め付ける。**注2・3**
- ③壁を仕上げる。



※壁仕上げ後、手すりの取付位置は調整できません。



注意

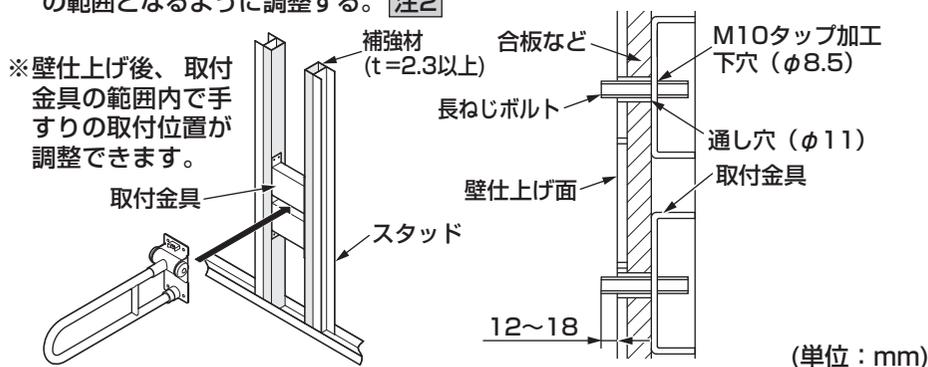
- 注1：**補強材の軽量鉄骨は $t2.3$ mm以上を使用してください。
- 注2：**長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整してください。
- 注3：**T110D49Rの場合"ウエ"表示が必ず取付面に対して上側を向くように施工してください。

7-4. 壁への固定金具の取り付け

軽量鉄骨下地：ボルト固定の場合

固定金具品番 T110D36+T110D53

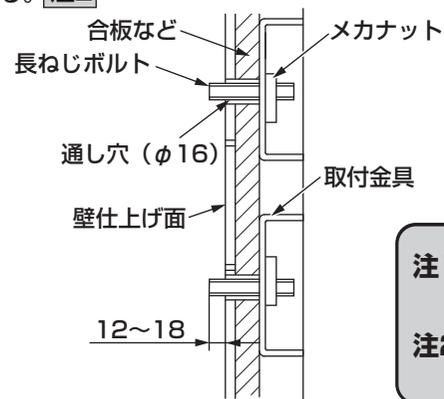
- ①手すり取付位置に、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)にドリルねじで固定する。**注1**
- ②壁仕上げ後、手すりの心出しを行い、M10タップ加工の下穴φ8.5mmをあける。壁仕上げ部にφ11mm程度の通し穴をあける。
- ③軽量鉄骨用取付金具にM10タップ加工を行う。
- ④長ねじボルトをねじ込み、壁仕上げ面より長ねじボルトの出代が12~18mmの範囲となるように調整する。**注2**



軽量鉄骨下地：メカナット固定の場合

固定金具品番 T110D36+T110D54

- ①手すり取付位置に、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)にドリルねじで固定する。**注1**
- ②壁仕上げ後、手すりの心出しを行い、メカナットの通し穴φ16mmをあける。
- ③メカナットを通し穴に挿入し、セットする。
- ④長ねじボルトをねじ込み、壁仕上げ面より長ねじボルトの出代が12~18mmの範囲となるように調整する。**注2**

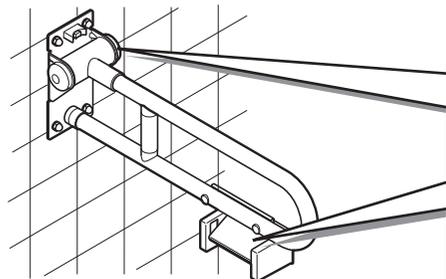


注意

- 注1：補強材の軽量鉄骨はt2.3mm以上を使用してください。
- 注2：取付プレートのボルトの出代が壁仕上げ面より12~18mmの範囲となるように調整してください。

8. 点検項目

取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。



ガタツキの確認

手すりにガタツキがないか確認してください。

手すりは壁にしっかり取り付けていますか？

➡ **7. 壁への固定金具の取り付け**
参照

紙巻器にガタツキがないことを確認してください。

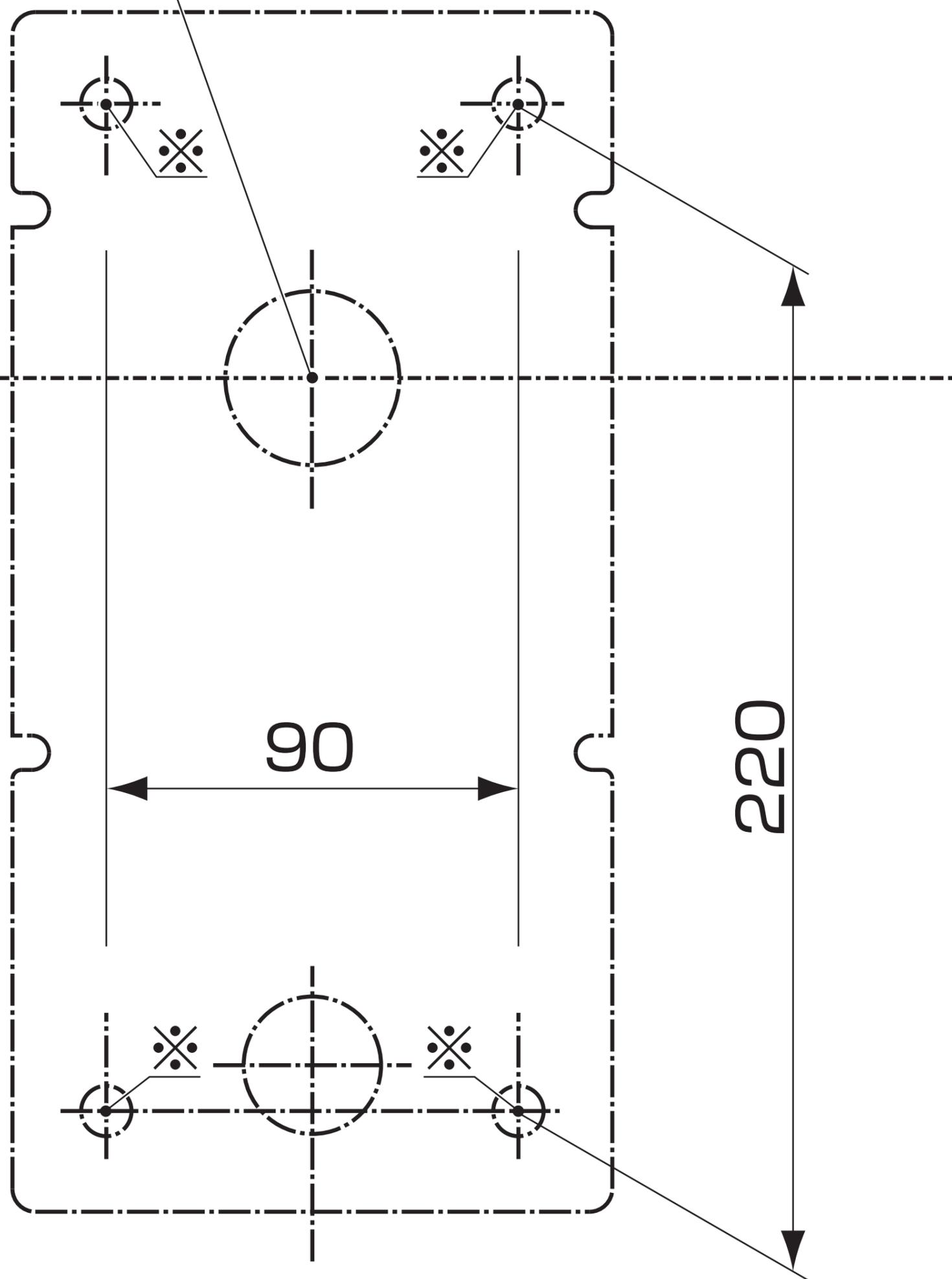
紙巻器はしっかり取り付けていますか？

➡ **2. 紙巻器付き(T112HP型)の場合**
参照

※他の施工方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

上バーの中心位置



T112H型

T113H型

T114H型

※は下穴位置